

東照宮よりこゝへ奉り強くおひらう

とまゝに再ひ舊領を賜ひ家傳參松系傳松系系諸集參考

三河國松平郷に歸り住へしとの命と

承り同十九年大坂の役より

東照宮に從ひありまゝ川口村に正統

より属して戦場よりむす清陣の

後加増せしれり四百二十石餘と細行り

正保の末後隠居し別荘して晴暗と

號し傳其子太席左衛門重和家へ継子孫

續きく松平の郷に住り參松系傳松系系諸集參考
今の三河國松平太席左衛門

信言の
祖なり

主膳信正の太席左衛門尚榮より子外よりしめ

太席八重實といひたり家譜實の孫本忠を清

重次より男外よりしと尚榮よりく子と

ふせり家傳元和元年駿府より出せり

別な米地より三河國より二百石と

賜たまはりり 家傳多松系傳
松系系諸集參考 清書院番とれる其年

六月大坂の役はり供奉して七日に戦ひしり

重しむる病をとりてこの國を歸りてはりしり

同じ年の六月廿七日 按はるに多松系傳松系系
諸集參考の廿九日と記せり 廿六日

死してはり 家傳 法名と榮冊といふ子はり

跡を絶えり 家傳松系正
系圖大全

松平

次席左衛門源信貞の次大夫正成の子はり

按はるに家傳の次席大夫といふり 隼人依信の二男と民部

重正といふ 按はるに家傳の親長の五男といふり
といふる家譜の重正といふりはり

信貞の祖父はりといふる小の河のり

生かる 寛永譜
家傳 信貞のりといふる佐内といふり

慶長十八年駿府にてはりしる

東照宮にてはりしる 家傳
そまのよりはりしる